

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 22 日作成)

委員会名	時系列リスク管理理論小委員会	主 査 名：栗田 哲
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：上谷宏二
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	時系列リスクのモデル化と管理計画確立の理論的裏付けを行うことを目的とする。2001 年度：公開委員会を開き、この研究分野の現況と本委員会の計画について、一般会員からの意見を聞く。2002～2003 年度：現象の分析及びモデル化と、その数理的・理論的表現を行う。2004 年度：これまでの成果と今後の展望について、セミナーを開く。	
委員構成 (委員名(所属))	栗田哲(東北大学), 藤堂正喜(戸田建設), 奈良岡浩二(清水建設), 和泉正哲(清水建設), 浅野幸一郎(関西大学), 石田勝彦(電力中央研究所), 大堀道広(工学院大学客員研究員), 滝澤春男(北海道大学), 武田正紀(清水建設), 石田寛(鹿島建設), 矢花修一(電力中央研究所), 高田毅士(東京大学), 佐伯琢磨(応用アール・エム・エス)	
設置 WG (WG 名: 目的)		
2004 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 12 月 16 日 6 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>近年、複数の地震災害が国内外で起きていることも有り、建物の耐震安全性の関心がさらに広まり、建物の地震リスク評価やリスク管理の重要性がますます高まっている。そこで、本委員会は、建物の地震リスク評価法に関して研究・調査を行った。その結果、地盤増幅及び周期特性を考慮した地震ハザード評価法、建物の復元力特性を考慮した地震リスク評価法、マルコフ決定過程に基づく建物の地震リスク管理に関する意思決定支援手法の提案が行われた。これらの方法により、地震ハザード評価を建物の応答スペクトルを指標にして、震源から建物までの種々の影響を統一的に扱えるようになり、環境の変化に対応した地震リスク管理の戦略構築も可能になった。本成果は、学術的な進展だけでなく、社会の関心や期待にも応えられる結果であると考えている。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本年度の成果は、建物の地震リスクに関する理論として、目標を達したと考えている。</p>
その他評価すべき事項	